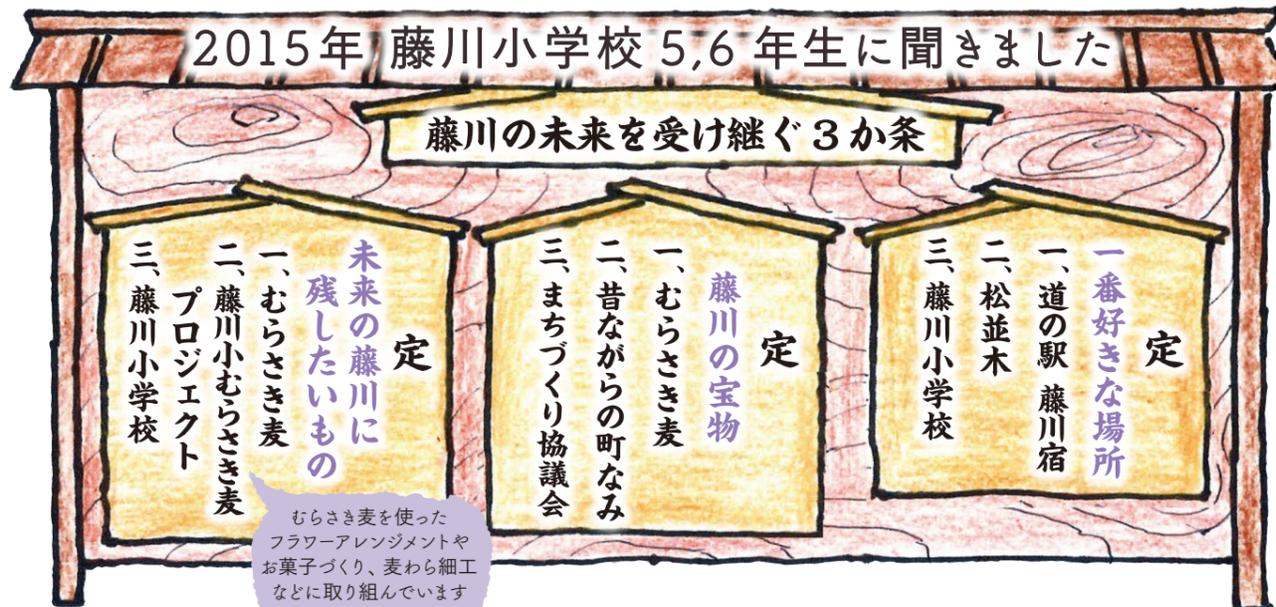


むらさき薫る宿場町  
藤川学区

FUJIKAWA



むらさき麦を使った  
フラワーアレンジメントや  
お菓子づくり、麦わら細工  
などに取り組んでいます

わたしは藤川の古い町な  
みと優しい地域の方々が好  
好きです。お米づくりを教  
えて下さったり、登下校の  
安全を見守って下さったり  
、本当にありがとうございます。

2015年 藤川小学校 5年生  
高橋琴珠さん



ぼくは、むらさき麦をこれ  
からも大切に守っていき  
たいと思います。むらさき  
麦を育て、大切に守って  
いるまちづくり協議会  
の方たちの心を受け継い  
でいきます。

2015年 藤川小学校 6年生  
今泉公貴くん



一打一打に  
心を込めて  
叩きます

藤川小学校  
和太鼓クラブ



藤川への想いを  
歌って踊ります

FJK  
チーム  
むらさき16



編集後記

積み上げられた歴史のなかに、今のわたしたちの生活や営みがあります。  
400年前、宿場町として栄えた藤川は、1996年に歴史国道に指定された旧東海道の往時の面影が色濃く残り、改めて郷土の文化や遺産に誇りと愛着を感じ取ることができました。  
この小編を編さんするにあたり、歴史の重みと先人の息吹や足跡に想いを馳せることができたのは、望外の喜びでありました。  
願わくば、次代を担う子ども達が故郷藤川に誇りを持ち、歴史と温かい人との絆を受け継がれ、語り継がれていくことを念じて止みません。

〔作成委員会〕 鈴木忠/原田茂/内山彩由実/川口英/榊原裕/江坂香代巳/堀之内了/原田志朗

〔参考資料〕 藤川宿散策のしおり、新編 岡崎市史、藤川小学校史資料集

〔表紙写真〕 東海道藤川宿の松並木風景は、今も子ども達の心に受け継がれています。(2016年3月撮影)



大正7年/東海道曲手(かねて)より山中方面を望む



昭和5年/藤川尋常小学校児童記念写真(芭蕉句碑前)



昭和12年/十王堂前の稚児行列。伊勢湾台風前は寄棟屋根だった



昭和16年/藤川尋常高等学校運動会



昭和39年/国道1号を通過して藤川を通過する東京オリンピック聖火ランナー



平成13年/東海道五十三次宿駅制定四百年記念の「藤川宿時代まつり」



平成24年/藤川駅前整備された道の駅「藤川宿」



平成27年/小中学校の給食として提供されたむらさき麦ご飯

# 藤川学区 まちのなりたち

伝馬朱印状が発給され「藤川宿」が成立

一六〇一年 ■ 慶長6

山中より市場村68戸移転、宿場の形が整う

一六四八年 ■ 慶安1

幕府直轄領の藤川村寺子屋開設

一八五六年 ■ 安政3

額田郡公立小学藤川学校開校

一八七二年 ■ 明治5

藤川村藤川尋常小学校として、現在地に移転、学区は市場・藤川・蓑川

一八九二年 ■ 明治25

愛知電気鉄道(現名古屋鉄道)藤川駅が開業

一九二六年 ■ 大正15

国民学校令により額田郡藤川国民学校と改称

一九四一年 ■ 昭和16

六三制実施により額田郡藤川村立藤川小学校と改称

一九四七年 ■ 昭和22

藤川学区内の国道1号が開通

一九五二年 ■ 昭和27

額田郡藤川村が岡崎市に合併され岡崎市立藤川小学校となる

一九五五年 ■ 昭和30

蓑川寺辺地区、藤川最初の宅地分譲地となる

一九六一年 ■ 昭和36

約1kmの藤川のまつ並木が岡崎市天然記念物に指定

一九六三年 ■ 昭和38

第一回藤川学区町民体育祭開催

一九七六年 ■ 昭和51

藤川台区画整理事業完了

一九八六年 ■ 昭和61

藤川宿資料館が完成(木造平屋建36・8m)

一九八九年 ■ 平成1

東海道ルネッサンス事業、東西の「棒鼻」を整備(↓地図A)

一九九三年 ■ 平成5

むらさき麦の苗、5品種20数鉢を

一九九四年 ■ 平成6

県農業総合試験場から譲り受ける

一九九五年 ■ 平成7

藤川宿まちづくり研究会発足

一九九六年 ■ 平成8

建設省(現・国土交通省)「歴史国道整備事業」対象地区に認定

二〇〇一年 ■ 平成13

東海道五十三次宿駅制定四百年記念行事として「藤川宿場まつり」を開催

二〇〇九年 ■ 平成21

5月、第1回「むらさき麦まつり」

二〇一二年 ■ 平成24

9月、「藤川宿時代まつり」開催

二〇一三年 ■ 平成25

名鉄線以北の蓑川土地地区画整理事業完了

二〇一五年 ■ 平成27

藤川宿まちづくり研究会、藤川まちづくり協議会に改組、第37回岡崎市教育文化賞受賞

二〇一四年 ■ 平成26

藤川地区、岡崎市景観形成重点地区に指定

二〇一五年 ■ 平成27

東部地域交流センター・むらさきかん開館、道の駅「藤川宿」開駅

二〇一五年 ■ 平成27

江戸末期の町家造りの「旧野村家住宅(米屋)」が岡崎市景観重要建造物に指定

二〇一五年 ■ 平成27

藤川宿本陣跡広場整備事業が完了

二〇一五年 ■ 平成27

「むらさき麦ご飯」が市内全小中学校などに給食として採用

二〇一五年 ■ 平成27

舞木・竜城・竜谷も学区に入っていたんだ

こんな前から町民体育祭をやっていたんだね

大公館、紫裸、妻町糯(つままちもち)、徳島糯、露の5品種があるよ

「藤川宿時代まつり」では、学区総出で仮装したよ。8000人も集まったんだ!

藤川で採れたむらさき麦400kgで36000食が提供されたんだよ

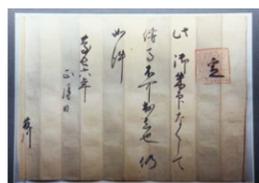
## 地名の由来

藤川の地名の由来として、1432年(永享4)に書かれた孝法印の紀行文「富士紀覧」に「宇治川のさと」とあります。また1779年(安永8)に刊行された林自見著「世診辨略」では、「藤川宿元ト宇治川ト云。駅ノ北裏ニ川有、又南ノ方大平川ノ流等ニ藤ノ花多ク有テ旅人壯観トス。故ニ藤川ト書改ト云。」など、藤川はかつて宇治川とっていたのを、藤の花が見事なことに藤川と改めたという故事が記されています。

## 宿場町 藤川

\* 藤川宿は1601年(慶長6)ご朱印状が発給されて、宿場町となりました。しかし、藤川宿の規模は小さく、早くから加宿村(宿場の拡張)が求められていて、1648年(慶安元年)、隣村市場村の68戸を移転させて、加宿市場村が出来上がり、現在の宿場町の形が整えられました。  
\* 藤川は、品川から数えて第三七番目の宿場町で、町並みは九町二十間(約1km)でした。  
\* 1843年(天保14)の記録によると、戸数302、本陣、脇本陣各1、問屋場1、旅籠屋36(大7、中16、小13)宿内人別1213でした。  
\* 藤川宿は、幕府直轄地(天領)で、石高は762石余、明治維新まで続いていました。  
\* 宿場の機能の大きな業務は次の三つが挙げられます。  
一、人馬の継立(荷物の運搬業務)  
二、旅人への休泊施設の提供  
三、飛脚業務(今の郵便業務)

## 藤川の文化財

		
藤川宿駒曳朱印状(関山神社)	藤川宿高札(関山神社)	海獣葡萄鏡(林福寺)
		
藤川宿脇本陣跡	那智参詣曼荼羅(明星院)	蔵王権現懸仏(明星院)

## DATA



□人	□	6,703人
	男性	3,526人
	女性	3,177人
□世帯数		2,956世帯
□面積		4.43km <sup>2</sup>

[2016年7月1日現在]

画：佐久間国夫（日本スケッチ画会会員）



**D 銭屋と歴史国道**  
連子格子の銭屋は往時の姿をしをのばせる。昔と変わらない路幅で残る旧東海道藤川宿は「歴史国道」に指定されている



**C 旧野村家住宅(米屋/岡崎市景観重要建造物)**  
江戸時代末期の様式を残す建物。米穀商として地域経済の中核を担っていた(→特集)



**B 市場裏道**  
川沿いの道からは、歴史を重ねた長屋門や蔵のある景観が見られ、風情を高めている。野菜を洗う際など川へと下りるための石段も見られる



**A 現在の東棒鼻**  
「棒鼻」とは宿場町の出入口のこと。東にあるため東棒鼻と呼ばれている



歌川広重 藤川棒鼻ノ図  
浮世絵師・広重が「八朔御馬献進(はっさくおうまけんしん)」の図として1834年(天保5)頃描いたといわれている

山に囲まれた細い谷あいには、山綱川、国道1号、名鉄本線、そして旧東海道の四つの流れが東西に走っています。かつて芭蕉も旅した東海道に思いを馳せ、昔から受け継がれてきた歴史と文化の薫りただよう宿場町・藤川を散策してみませんか。

# 是より藤川 ―芭蕉の旅した街道― 歴史国道をゆく



宿場の東西入り口にある棒字杭



**J 藤川のまつ並木(市指定市天然記念物)**  
1604年(慶長9)家康公の意を受け、東海道の整備がなされ、道の両脇に松が植えられた。藤川の松並木は宿場のシンボルとして、今も大事に守られている



**I 吉良道(きらみち)道標**  
海産物の搬入路など重要な脇街道。茶壺道中が通ると必ず雨が降るといふ「茶壺のみだ雨」の言い伝えがある



**H 十王堂と芭蕉句碑**  
冥土(死者の魂のいくところ)にいて、亡者(死んだ人)の罪を裁く10人の判官(十王)を祀る堂。境内には、むらさき麦を詠んだ芭蕉の句碑がある



**G 藤川宿脇本陣跡(藤川宿資料館/市指定文化財跡)**  
宿場に設置された本陣に次ぐ宿。現在は門構えを残し資料館になっており、当時の街並みや資料が展示されている



**F 本陣跡石垣**  
江戸時代、公家や諸大名などの貴人が使用した宿舎で、幕府公認の休泊所。現在は広場になっており、裏には城郭を思わせる石垣が残っている



**E 高札場(本陣跡)**  
2014年(平成26)本陣跡広場整備により現存する6枚の高札(市指定文化財歴史資料)を模した高札場や冠木門を再現した

# 藤川のたからもの むらさき麦

ここも三河  
むらさき麦の  
かきつばた



芭蕉

## 芭蕉句碑



芭蕉句碑(十王堂)

ここから新しい「まちづくり」が始まりました。1994年、芭蕉句碑に刻まれた「むらさき麦」を復活。以来藤川まちづくり協議会が中心となり、「むらさき麦まつり」「むらさき麦の商品化」「オーナー制度」などを展開。藤川の新しいシンボルとして、「まちづくり」に大きな役割を果たしています。

## 藤川音頭

藤川音頭は  
8番まであるよ

♪ハアアアア

牛乗山から

藤川見れば

チヨイトネ

むらさき麦穂が

おじぎする

おじぎする

ソレサーサ

踊れや 藤川音頭

むらさき麦、松並木など藤川の歴史

や文化を歌い込んだ藤川音頭を、納涼

夏まつりでは学区民みんなで踊ります。



## むらさき麦まつり

畑一面美しいむらさき麦が風になびく5月中旬に開催。街道の散策、芭蕉の句にちなんだ俳句の募集、スタンプラリー、藤川小学校和太鼓クラブの演奏、むらさき麦を使ったうどんやおにぎりの試食などを行います。



## むらさき麦の商品化

焼酎、ビール、うどん、そば、クッキー、むぎ焦がし、パンなどたくさんの商品化に挑戦しています。愛知産業大学デザイン学科の学生がデザインしたパッケージの商品もあり、道の駅「藤川宿」で購入することができます。



## むらさき麦

### オーナー制度

一口5千円でむらさき麦のオーナーになることができます。現在130名が種まき、麦踏み、収穫まで自分で管理。藤川まちづくり協議会の会員が指導します。



みんなで守り、活かす

## 藤川宿米屋



2013年8月に岡崎市景観重要建造物に指定された江戸時代末期の町家造りの「旧野村家住宅(米屋)」は、地元の方々の寄付と藤川小学校児童や愛知産業大学建築学科の学生らの協力により外観が復元されました。趣味の手芸品などを販売したり、旅の休憩場所として気軽に立ち寄れる「むらさき小町」として週末に公開されています。



大好きな「ふるさと藤川」を守り伝える

## 藤川小ガイド

ぼくたちが  
手作りの  
資料を作って  
心をこめて  
案内します



藤川小学校の6年生は、毎年5月に開催される「むらさき麦まつり」で「町のガイドさん」として大活躍。藤川を訪れる方たちを、心を込めておもてなしします。「大好きな藤川の町について、自分たちが学んだことを紹介して役に立ちたい」。ガイドをする6年生は、誇りと自信に満ち溢れています。



## 地域を支える人と人の絆

地域のふれあいを通じた人々の「近所力」と福祉の心を持って、子どもからお年寄りまで各種の地域活動に参加しています。学区の社会教育委員会、福祉委員会の委員を中心に児童の登下校の見守り、敬老会、いも煮会、総合防災訓練といった行事や活動を行い、地域の絆を育んでいます。

## 町民体育祭

学区と小学校の合同の運動会。学区の人々も楽しみにしています。毎年子どもたちの心に残るような、開閉会式のパフォーマンス、バザー、飾りつけ等で華やかに盛り上げています。



## 買い物バス「むらさき号」

納涼夏まつりの  
シャトルバス運行  
がきっかけで買い  
物バスが生まれた

学区内の高齢者支援の取組みとして、「買い物バス」の自主運行を2013年11月より始めました。現在月3回実施しています。地域主導の福祉活動として関係各方面より注目されています。



## 福祉への取組み

学区内には障がい者施設(藤花荘、愛厚藤川の里等)が複数あり、施設激励訪問や各種「ふれあい祭り」への参加、総合防災訓練を一緒に行っています。

